

## 自己評価報告書

平成 23 年 3 月 31 日現在

機関番号：34406  
 研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2008～2011  
 課題番号：20510240  
 研究課題名（和文） 四川省チベット地区における中国共産党の宗教政策及び統一戦線活動に関する研究  
 研究課題名（英文） A Study on the Religious Policies and United Front Activities of the Chinese Communist Party in the Tibetan Area of Sichuan Province  
 研究代表者  
 川田 進（KAWATA SUSUMU）  
 大阪工業大学・知的財産学部・准教授  
 研究者番号：10288756

研究分野：中国地域研究  
 科研費の分科・細目：地域研究・地域研究  
 キーワード：東チベット、中国共産党、宗教政策

## 1. 研究計画の概要

- (1) 「宗教問題」と「民族問題」は政治の動向と深く関わっており、21 世紀の中国社会を読み解く重要な鍵である。本研究が扱う四川省チベット地区とはカンゼ州とアバ州であり、ともにチベット族を中心とした民族自治州である。対象時期は、中華人民共和国成立（1949 年）から現在までとする。チベット自治区の周縁部である四川省チベット地区に焦点をあて、「漢民族のチベット仏教への接触と関与」という視点から中国共産党の宗教政策及び統一戦線活動の実態を解明することを目的とする。複数回の現地調査を重視しつつ、地方政府発行の文献資料・『人民日報』記事等を活用して検証する。
- (2) チベットの宗教問題を解明する上で四川省・青海省等のチベット地区つまり「周縁部からのアプローチ」が効果的である。私はこの考えに基づき、1991 年以降、四川・青海・甘粛・雲南各省内のチベット地区で、中国共産党の民族・宗教政策に関する調査を 20 回実施し、21 篇の研究論文を発表した。本研究ではこれまでの調査内容を継続・発展させつつ、四川省カンゼ州・アバ州を対象を絞り込むことで中国共産党のチベット政策の特質を明らかにする。
- (3) チベット周縁部における漢民族のチベット仏教への接触という視点から政治と宗教の関係、漢族の宗教観、宗教を支える経済活動と地域の連携、コンピューターネットワーク上の宗教空間、国境を超える支援活動、ダライ・ラマ亡命政府との関係を明らかにすることができる。チベット自治区と中国の緩衝地帯を現地調査することに

より、現在中国政府が最重要課題に掲げるいわゆる「チベット問題」を解決するための有益な手掛かりをつかむことができると確信している。

- (4) 四川省チベット地区における党の宗教政策と中国知識人の関係を描いたルポルタージュ作品の分析を行う。対象とするのは、陳曉東「ニンマの紅い輝き」、呉玉天「訪雪域大師」及びアメリカ仏教教会が発行する雑誌「美佛慧訊」である。「ニンマの紅い輝き」「訪雪域大師」には、文化大革命終結後、チベット仏教が四川省で復興し弾圧を受けるに至った背景が克明に記されている。また、雑誌「美佛慧訊」にはアメリカ在住華僑の視点から描かれた四川省チベット仏教とヤチェン修行地の関係を描いた作品が多数掲載されている。華僑からの経済的支援と党のチベット政策・宗教政策には大きな接点があることを立証する。

## 2. 研究の進捗状況

## (1) 現地調査

2008 年、2009 年、2010 年に各 1 回実施した。主な調査地点はラルン五明仏学院（2010 年）、ヤチェン修行地（2010 年）である。2008 年、2009 年は調査地点を変更した。（現地調査①～③）

## (2) 文献調査

四川省チベット地区、青海省チベット地区、北京にて、研究課題に関連した政府関連文書や研究書を多数入手し、研究は大きく進展した。

## (3) 「2008 年チベット騒乱」

研究着手後、「2008 年チベット騒乱」が発

生し、現地調査地点の変更及び研究内容に一部変更が生じたが、研究全体に大きな影響を与えるには至っていない。むしろ、課題研究に新たな要素が加わり、研究進捗を後押ししたと言える。(雑誌論文②)

(4)「2010年玉樹地震」

研究着手後、「玉樹地震」が発生したことにより、急遽「玉樹地震後における中国共産党の宗教政策」というテーマを追加した。(雑誌論文①)

(5)統一戦線データベース

(3)(4)の研究課題が加わったことにより、(5)の資料作成は進展していない。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

(1)3回の現地調査にて資料収集、関係者へのインタビュー等、成果が得られた。

(2)「2008年チベット騒乱」「2010年玉樹地震」という緊急テーマを追加したことにより、当初の研究課題に新たな枠組みと研究方法を取り込むことができた。

4. 今後の研究の推進方策

(1)2011年3月、四川省アバ州にて僧が自害する事件(「2011年アバ事件」)が発生した。この事件を「2008年チベット騒乱」と関連づけて考察を進める。

(2)2011年現地調査地点にアバ県を追加する予定である。

(3)ラルン五明仏学院での調査が進展したことにより、拙論「色達喇榮寺五明仏学院に見る中国共産党の宗教政策」を補筆改訂する。

(4)「玉樹地震」のその後の復興状況と党の宗教施策の動向を追跡調査する。

(5)ヤチェン修行地における宗教カリスマの構造に関して学会発表を行う。

(6)四川省チベット地区における「霊性運動」と漢人信徒の関連について、研究会等で報告を行う。

(7)「2008年チベット騒乱」に関する文献の追跡調査を行う。

(8)中国蔵学出版社、民族出版社発行書籍の中で、四川省チベット地区関連のものを収集する。

(9)研究課題に則した内容の学術書の執筆を進める。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計8件)

①川田進「玉樹に捧げる鎮魂の祈りーラルン五明仏学院と三人の政府要人」、『火鍋

子』第76号、翠書房、132-145頁、2010年、査読無

②川田進「チベット周縁地域に築かれた宗教空間——「2008年チベット騒乱」と四川省甘孜チベット族自治州を中心に」『大阪工業大学紀要 人文社会篇』第54巻第1号、13-55頁、2009年、査読有

<http://www.oit.ac.jp/japanese/toshokan/tosho/kiyou/jinshahen/54-1/02kawata.pdf>

③川田進「蜂起・叛乱・文革——チベットを埋め尽くした治安維持部隊と紅衛兵」『火鍋子』第73号、翠書房、84-97頁、2009年、査読無

④川田進「台湾人信徒がカトク寺で見た『光り輝く闇』」、『火鍋子』第74号、翠書房、64-74頁、2009年、査読無

⑤川田進「中国「百年の夢」チベット「五十年の悪夢」——2008年チベット騒乱から北京五輪まで」、『火鍋子』第72号、翠書房、70-83頁、2008年、査読無

⑥川田進「デルゲ印経院とデルゲ土司に見る中国共産党のチベット政策」『大阪工業大学紀要 人文社会篇』第53巻第1号、19-50頁、2008年、査読有

<http://www.oit.ac.jp/japanese/toshokan/tosho/kiyou/jinshahen/53-1/02kawata.pdf>

[その他] 現地調査 (計3件)

①目的：四川省チベット地区における中国共産党のチベット政策・宗教政策に関する現地調査

期間：2010年7月28日～8月11日

場所：中国四川省甘孜州徳格県、甘孜県、白玉県、色達県、康定県

②目的：四川省及び青海省チベット地区における中国共産党のチベット政策に関する現地調査

期間：2009年7月28日～8月11日

場所：中国四川省カンゼ州・青海省玉樹州、海南州、果洛州、平安県、西寧市

③目的：青海省チベット地区及び四川省成都市における中国共産党のチベット政策に関する現地調査

期間：2008年7月25日～8月8日

場所：中国青海省達日県、班瑪県、甘徳県、瑪沁県、同徳県、同仁県、沢庫県、河南県、循化県、西寧市、四川省成都市